［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年 3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204185
法人名	株式会社　アイリーフ
事業所名	グループホームアイリーフ五日市
所在地 （電話番号）	広島県広島市佐伯区八幡二丁目23番15号 （電　話）082-926-2736

評価機関名	（社福）広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12－2		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年3月30日

【情報提供票より】（平成20年2月7日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成15年7月1日	
ユニット数	2 ユニット	18人
職員数	18 人	常勤　13人，　非常勤　5人，　常勤換算　9.4人

（2）建物概要

建物形態	○併設／単独	○新築／改築
建物構造	重量鉄骨造	
	地上2階建1～2階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	54,000 円		その他の経費（月額）	－ 円
敷　　金	有（　　円）	無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	○有（　180,000円） 無		有りの場合 償却の有無	○有／無
食材料費	朝食	－ 円	昼食	－ 円
	夕食	－ 円	おやつ	
	又は1日　1,200円			

（4）利用者の概要（2月7日現在）

利用者人数	18 人	男性	7 人	女性	11 人
要介護1	4 人		要介護2		3 人
要介護3	3 人		要介護4		7 人
要介護5	1 人		要支援2		0 人
年齢　平均	87 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	しらたきクリニック，　甲野歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームアイリーフ五日市は，佐伯区の県道沿いの住宅街に位置しており，近くに中学校や大型スーパーなどがあり，生活に便利な環境にあります。日常的なスーパーへの買い物や散歩の他，温泉や動物園，博物館など，利用者の「行きたい」という気持ちを大切にした外出支援が積極的に行われており，外出によって，地域の人との交流を深めるきっかけや生活の中の楽しみごとや気晴らしの支援にもつながっています。
「あたたかい家庭の雰囲気そのままに」をホーム独自の理念として掲げ，利用者が地域の一員として地域にとけ込み，その人らしく生活できるよう取り組まれており，日々のサービス提供場面の中で，管理者と職員の間で「家庭だったらどうだろうか」という声かけを行うことで，自ら提供するサービスの振り返りを行うとともに，理念の共有と実践に取り組まれています。
また，日々の暮らしの中で利用者の知恵や経験から学ぶ機会づくりや利用者が生活の中に張りあいや役割を感じられるよう場面づくりや役割づくりに取り組まれている他，職員は利用者のいたわりの言葉で疲れを回復することがあるなど，「支援する」「支援される」という関係にとどまることなくお互いを支えあう関係が築かれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価では，市町との連携について課題となっていましたが，ミニサロン等，地域の実情やニーズにあわせた事業展開により，地域の福祉に貢献するとともに，市町と日常的に行き来できる関係が築かれています。また，開所当初は，利用者の日々の生活支援をより細やかにすることが努力目標となっていましたが，施設管理者，職員が一丸となって理念に沿ったケアに取り組むことで，一人ひとりの「好きなこと」や個性に合わせた生活の支援に取り組まれていました。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

管理者，職員全員で意見交換を行いながら，自己評価，外部評価に積極的に取り組まれています。また，評価結果をもとに，具体的な改善に向けた話し合いの機会を設けるなど，評価をサービスの質向上に活かす体制が整えられています。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

町内会長，民生委員，区職員，社協職員，家族等多数の参加を得て，運営推進会議を2か月に1回開催されています。会議では，会食を行いながら実施するなど，発言しやすい雰囲気づくりに配慮しながら，利用者の日々の活動の様子やホームの取り組みについて報告が行われている他，様々な視点から積極的な意見交換が行われています。また，出された意見をもとに，地域の認知症高齢者や独居の高齢者も利用できるミニサロン「福寿庵」を開設するなど，地域の実情やニーズにあわせた事業展開が行われています。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

6か月に1回開催される家族会やホーム行事への参加により，家族同士の関係が築かれており，それらの機会を通して家族の意見の把握に努められています。また，毎月請求書を送る際に，意見・要望の記入用紙を同封するとともに，玄関に苦情箱を設置し，家族が直接伝えにくい意見の汲みとりにも配慮されており，受けつけた意見等に対する対応について家族会の際や文書によって報告することで，家族が意見を言いやすいような雰囲気づくり，信頼関係づくりに努められています。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

老人クラブの集いや納涼祭，秋祭り，とんど祭り等の地域行事への参加の他，クラブ活動の際には地域ボランティアの協力を得るなど，積極的に地域との交流を深められています。また，町内会に加入するとともに，フリーマーケットでは，利用者が販売員として参加するなど，利用者が地域での役割を感じられるよう取り組まれています。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あたたかい家庭の雰囲気そのままに」をホーム独自の理念として掲げ，地域の人が訪問しやすい雰囲気づくりに努めるとともに，散歩や買い物など日々の暮らしを通して地域の人と交流し，地域の一員として地域にとけ込み，その人らしく生活できるよう取り組まれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のサービス提供場面の中で，管理者と職員の間で「家庭だったらどうだろうか」という声かけを行うことで，自ら提供するサービスを振り返り，理念の共有と実践に取り組まれています。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人クラブの集いや納涼祭，秋祭り，とんど祭り等の地域行事への参加の他，クラブ活動の際には地域ボランティアの協力を得るなど，積極的に地域との交流を深められています。また，町内会に加入するとともに，フリーマーケットでは，利用者が販売員として参加するなど，利用者が地域での役割を感じられるよう取り組まれています。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者，職員全員で意見交換を行いながら，自己評価，外部評価に積極的に取り組まれています。また，評価結果をもとに，具体的な改善に向けた話し合いの機会を設けるなど，評価をサービスの質向上に活かす体制が整えられています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長，民生委員，区職員，社協職員，家族等多数の参加を得て，運営推進会議を2か月に1回開催されています。会議では，会食を行いながら実施するなど，発言しやすい雰囲気づくりに配慮しながら，利用者の日々の活動の様子やホームの取り組みについて報告が行われている他，様々な視点から積極的な意見交換が行われています。また，出された意見をもとに，地域の認知症高齢者や独居の高齢者も利用できるミニサロン「福寿庵」を開設するなど，地域の実情やニーズにあわせた事業展開が行われています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	〇市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議，家族会等の機会に，区職員との連携が図られています。また，資料等を直接行政に持参したり，相談に行くことで，日常的に行き来できる関係づくりに努め，サービスの質向上に積極的に取り組まれています。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	〇家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の日々の暮らしぶりについて報告されています。また，料理をする様子など，ホームでの生活や行事の際の表情等が家族に伝わるように，写真を掲載したり，利用者に応じたコメントを掲載した冊子「ひまわり」を発行し，家族が安心感を得られるよう努められています。		
8	15	〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月請求書を送る際に，意見・要望の記入用紙を同封するとともに，玄関に苦情箱を設置し，家族が直接伝えにくい意見の汲みとりにも配慮されています。また，受けつけた意見等に対する対応について家族会の際や文書によって報告することで，家族が意見を言いやすいような雰囲気づくり，信頼関係づくりに努められています。		
9	18	〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が生じた場合には，利用者，家族に丁寧に説明を行うとともに，新しい職員が利用者と接する際には，なじみの職員が一緒に関わるなど，ゆるやかに新しい関係づくりが行えるよう配慮されています。		
５．人材の育成と支援					
10	19	〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの看護師による救急医療措置等の講習の機会を設けるなど，内部の専門職の指導を受ける機会が確保されている他，外部の認知症ケアに関する研修にも積極的に参加されています。また，職員と管理者の話し合いの機会が「月に1回，1時間」個別に設けられており，職員の思いに配慮しながら，育成に取り組まれています。		
11	20	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐伯区のグループホーム事業者によるネットワークを活用し，積極的に意見交換を行うとともに，お互いのホームを見学する機会を設けるなど，同業者との定期的な交流を通してサービスの質向上に取り組まれています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に見学の機会を設けるなど，利用者がホームの雰囲気になじみながら，納得し，安心してサービスの利用が行えるよう取り組まれています。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	週2回，「旬の料理クラブ」の中で，職員が利用者から料理の方法やコツを学んだり，利用者同士が助けあうなど，日々の暮らしの中で，利用者の経験や知恵から学ぶ姿勢が大切にされています。また，職員が疲れている時など，利用者からいたわりの言葉をかけてもらうなど，「支援する」「支援される」という関係をお互いに意識することなく支えあう関係が築かれています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し，利用者一人ひとりの生活背景や趣味，嗜好等の把握に努められています。カメラが趣味の利用者に行事の写真撮影をお願いしたり，花づくりの好きな利用者に毎日の花の水やりを行っていただくなど，利用者の「好きなこと」「得意なこと」が，日々の生活の中で発揮できるよう場面づくり，役割づくりに取り組まれています。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	〇チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者，家族の思い，希望の把握に努めるとともに，職員間で話し合いながら，利用者本位の計画が作成されています。		
16	37	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日，ケアプランチェック表に利用者の状態を記入されており，記録をもとに利用者の状況に応じた介護計画の見直しが行われています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域行事への参加，散歩，買い物，外出など利用者，家族の要望に応じた柔軟な支援と併設する小規模多機能型居宅介護事業所や宅老所・ミニサロン等の事業所の多機能性を活かした支援が行われています。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりのかかりつけ医を把握し，適切な医療が継続して受けられるよう取り組まれています。また，利用者の状況に応じた定期健診や往診が行われており，利用者の病状によっては総合病院での受診をすすめるなど，協力病院と連携を図りながら，利用者の健康に配慮されています。		
19	47	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について，家族に説明し，話し合いを行いながら，方針の共有に取り組まれています。また，看護師を中心として，医師と連携を図りながら，ホームが対応しうる最大のケアについて検討されています。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にされており，言葉かけ等にも配慮されています。また，個人情報の取り扱いについて家族の同意が得られている他，記録等の取り扱いには細心の注意が払われています。		
21	52	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にした，ゆったりとした暮らしを大切にされており，一人ひとりの「好きなこと」や個性に合わせた生活が支援されています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在，食事は，主として委託されていますが，毎週木，土曜日には，「旬の料理クラブ」として，四季折々の食べたい料理をみんなで考え，食材の買い物から調理，配膳，片付けを利用者と職員が一緒に行う機会を設けるなど，食事の時間が利用者の役割づくりや楽しみごとへつながるよう支援されています。また，季節の花が飾られた食卓で，家族も一緒に食事をとるなど，家庭にいるような温かい雰囲気づくりが行われています。		
23	57	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭的なお風呂での入浴支援が，利用者一人ひとりの介護度や身体状況，体調に合わせて行われています。また，季節に応じて，菖蒲湯やヨモギ湯の日を設けるなど，入浴が楽しみとなるよう取り組まれています。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や花の水やり，食事の手伝いなど，一人ひとりの「できること」を活かした役割づくりに取り組まれており，「できること」が日々の暮らしのハリや気晴らしの支援につながっています。また，ボランティアによる音楽会や生け花，お茶会，地域行事への参加など，利用者が自ら生活に楽しみごとを見いだせるような場面づくり，機会づくりにも取り組まれています。		
25	61	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が，部屋に閉じこもることのないよう，スーパーへの買い物や散歩など，積極的に外出の機会が設けられています。また，家族の協力を得て，温泉や動物園，博物館等，利用者の「行きたい」という気持ちを大切にした，外出支援が行われています。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方は安全のために施錠されていますが，日中は鍵をかけないケアに取り組まれています。また，利用者の状況に応じて，居室にセンサーライトを設置し，立ち上がりの様子を把握されており，見守りの徹底によって安全に配慮されています。		
27	71	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回，消防署の指導のもと，さまざまな状況を想定した火災避難訓練が行われており，訓練の様子は家族にも報告されています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1,500ccを目標として「水分摂取一覧表」を記入しながら，一人ひとりの水分摂取量と排泄状況を把握し，利用者の健康を管理されています。また，利用者の状況に応じて，おかゆ，小むすび，きざみ食，とろみ食など食事形態を工夫するなど，無理なく必要な栄養や水分が確保できるよう配慮されています。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の居間には，利用者の活けた季節の花を飾り，ゆったりとしたソファで，食後のテレビ鑑賞や新聞読みなど自由に時間を過ごせるよう配慮されています。また，利用者の目線の高さに合わせて時計やベランダの物干し竿を配置するなど，利用者が自分のいる場所を認識しながら，活動できるよう配慮されています。		
30	83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には，利用者が自宅で使用していたなじみの家具が持ち込まれている他，壁には家族の写真も飾られており，住み慣れた家と同じように安心できる雰囲気づくりに取り組まれています。		

（別紙２－１）

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護

認知症対応型共同生活介護

事業所名　　グループホーム アイリーフ五日市　Ｉ

評価年月日　　２０　年　１　月　３１　日

記入年月日　　２０　年　２　月　１０　日

※この基準に基づき，別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者　　職　１Ｆ管理者 兼 計画作成担当者 兼 介護職

氏名　　藤井　正江

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ　理念の基づく運営				
	1　理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 　地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして，事業所独自の理念をつくりあげている。	「あたたかい　家庭の雰囲気そのままに」の実現の取り組みとして 地域の方々が訪問し易い雰囲気づくりを心がけている。買い物・散髪・散歩など地域の生活を楽しんでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 　管理者と職員は，理念を共有し，理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	若干名の職員は自己流になる時があるが、概ね理念の実践に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 　事業所は，利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を，家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会・運営推進会議・地域住民の方々との座談会の際、認知症のことやグループホームの役割、地域の中で生活することの大切さを話している。	○	現在進行形である。町内会長・民生委員　地域の方々との気軽な付き合いを深めたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 　管理者や職員は，隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり，気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ご近所の方の好意でご自宅から苗を持参され施設の庭に植えて下さったり、「畑でとれたから」と季節の野菜をご近所から頂いたり、行事の際ご近所の方や保育園園児の参加もある。		
5	○地域とのつきあい 　事業所は孤立することなく地域の一員として，自治会，老人会，行事等，地域活動に参加し，地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会しており、地域の行事などに参加し交流を深めている。	○	地域の方々に気軽に立ち寄って頂き交流を深めていきたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 　利用者への支援を基盤に，事業所や職員の状況や力に応じて，地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い，取り組んでいる。	地域の方々と共に宅老所「福寿庵」を立ち上げて、地域高齢者の活動の場を提供するお手伝いをしている。	○	地域のお世話役さん方等と「福寿庵」を継続していきたい。
3　理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 　運営者，管理者，職員は，自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し，評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職場全体での取り組みを自己評価等で再確認している。改善に向け職員の自発的努力の向上に繋がっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 　運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日常の活動・取り組み等を報告し、参加者に意見　要望・提案を頂き、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町との連携 　事業所は，市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり，市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	解らない事があれば、その都度 市へ問い合わせ指導を仰いでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 　管理者や職員は，地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	家族会では成年後見制度について説明しているが、全職員には学ぶ機会を持っていない。	○	勉強会など機会をもつようにする。
11	○虐待の防止の徹底 　管理者や職員は，高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	研修で学んだ事、市からの指導は書面で伝えている。また ご自宅へ一時帰省された方には家での様子を伺っている。		
4　理念を実践するための体制				

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は，利用者や家族等の不安，疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い理解、納得を図っている。 また 不明な事があれば、いつでも伺うよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらの運営に反映させている。	利用者様が何を求めているか、教えてもらうため密なコミュニケーションを図っている。またその都度伺うよう努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態，金銭管理，職員の異動等について，家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の面会時、日々の様子等全般を丁寧に報告しているが、難し場合もある。(職員が介助中の際)	○	ご家族様の体調不良もあり面会が難しい方に　報告の頻度を増やす。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	毎月の請求書の中にご意見・ご要望の用紙を同封したり、玄関にも意見箱を設けご家族の意見を頂いている。どの様な意見が有りどの様に対応したか家族会や書面で報告している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	毎月のミーティングで各職員から出た意見提案を全職員がどの様に改善するか討議している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の状況の変化には、随時、業務内容の変更をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は，利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし，代わる場合は，利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職場は利用者様の重度化に伴い業務内容はハードであるが、職員間の信頼関係が有り働き安い環境である。離職の際は利用者様の理解できる言葉で説明している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 　運営者は，管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしてくことを進めている。	職員のスキルアップを図るため、随時必要に応じ 市の研修・GHの研修等参加している。また、資格取得の機会を確保したり、毎月２回行う勉強会の際 看護師から様々なアドバイス・指導を受けている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 　運営者は，管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	GHの定期的な研修会・施設見学・親睦会等の交流をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 　運営者は，管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	なかなか難しい課題である。ストレスは全職員が感じているが、それ以上に仕事を楽しんでいる。必要に応じ業務内容を変更をしている。また 親睦会等、催しストレスの軽減に努めているが、ユニットが抱える課題である。	○	職業的にストレスが伴う仕事である。コミュニケーションを取りながら職員皆で取り組んで行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 　運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員個々の達成したことについて、評価している。		
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 　相談から利用に至るまでに本人が困っていること，不安なこと，求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり，受けとめる努力をしている。	ご家族・ご本人から生活歴を聞いたり、センター方式シートを活かし ご本人にとっての暮らしを知ることに努める。また 日常的にゆっくりと聴く機会をとる様にしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
24	○初期に築く家族との信頼関係 　相談から利用に至るまでに家族等が困っていること，不安なこと，求めていること等をよく聴く機会をつくり，受け止める努力をしている。	相談時いろいろ施設をご覧になられることを勧めている。納得・理解され利用される際は その都度 機会をつくり聴くようにする。また 場合によっては相談させて頂いている。		
25	○初期対応の見極めと支援 　相談を受けた時に，本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	社会資源の情報提供をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 　本人が安心し，納得した上でサービスを利用するために，サービスをいきなり開始するのではなく，職員や他の利用者，場の雰囲気に除々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ゆっくりとご本人のペースに合わせ少しづつ理解して頂くようにしている。ご家族と情報を共有し暮らしを支援している。		
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 　職員は，本人を介護される一方の立場におかず，一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし，本人から学んだり，支えあう関係を築いている	疲れた顔をしている時、利用者様から労りの言葉をかけて頂き「ほっと」癒されることがある。時折ある夕食作りでは、料理の仕方・裏ワザを教わる時もある。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 　職員は，家族を支援される一方の立場におかず，喜怒哀楽を共にし，一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に日常の暮らしを伝え、ご家族に必要に応じて協力を率直に依頼している。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 　これまでの本人と家族との関係の理解に努め，より良い関係が築いていけるように支援している。	定期的に行事や日常写真を面会時に説明しながら渡している。自主作成の詩集から言葉・表情を見て頂いている。また 日常の会話を面会時に伝えている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	面会はオープンである。馴染みの理容店に定期的に行ったり近所へ買い物に行ったりしている。が、重度化が進み身体保持のケアで一日がすぎてしまう日がある。季節柄なかなか外出することが難しい日もある。ご家族の協力で外出を定期的に２名の利用者様は継続している。習いもの教室では馴染みの方が定期的に訪問している。	○	地域のボランティア・ご家族のボランティア・ご近所の方々の面会があり、今後もオープンな環境を継続していけるよう努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるように努めている。	利用者様同士の関係は全職員把握している。利用者様への毎日の声掛け、また ゆったり過ごせるようリビングにはソファを置き 話やすいスペースがある。行事等、全利用者様と楽しんでいる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても，継続的な関わりを必要とする利用者や家族には，関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	お便りなどで 交流を継続している		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1　一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	できるだけ本人本位にしているが、出来ていない時もある		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族・利用者様に話をよく聴き 馴染みの暮らしを支援しているが、十分かと言われたら 不十分である。	○	利用者様の生活シートの整理をしている。

番号	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
w35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々に合わせた過ごしかたをしている。		
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	日頃の様子を面会時に報告し、ご家族から意見を聞き 要望を取り入れ ケアプランにあげている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに，見直し以前に対応できない変化が生じた場合は，本人，家族，必要な関係者と話し合い，現状に即した新たな計画を作成している。	毎日のケアプランチェク表をもとに ケアプランを見直し定期的に変更している。状況変化に応じた随時の見直しが不十分である。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様 個々のケアプランチェク表で毎日チェクし見直しに活かしている。		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況，その時々の要望に応じて，事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人・ご家族の要望に応じて臨機応変に対応しているが、利用者様３名に対し職員１名の日中の勤務体制では 難しい場合もある。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて，民生委員やボランティア，警察，消防，文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの訪問があり利用者様の話相手として活動して頂いている。民生委員・老人会の方の訪問も時折ある。避難訓練の際、消防署職員の指導を受けている。また 中学生の職場体験を受け入れている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて，地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い，他のサービスを利用するための支援をしている。	ご家族の要望がある際、社会資源の情報提供をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて，権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について，地域包括支援センターと協働している。	実施できてない。	○	地域包括支援センターの方に これからも運営推進会議に出席を依頼し関係を継続していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関(内科・歯科)がある。協力医療機関とは別の病院を希望される方には、ご家族の協力を得ている。 常勤の看護師が医療機関と密に関係を築いていて、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら，職員が相談したり，利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	利用者様各々の主治医から指示や助言を得ている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら，日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	些細なことでも相談し支援している。夜間はオンコール体制をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは，そうした場合に備えて連携している。	常に病院関係者と連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について，できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	必要に応じご家族・主治医との話し合いの機会をもつようにしている。相談し方針を決め、職員で共有している。	○	入所の際 ターミナルについて相談していきたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 　重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために，事業所の「できること・できないこと」を見極め，かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは，今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	具体的には情報収集段階である。	○	勉強会をしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 　本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際，家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い，住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	ご本人・ご家族の納得されるまで十分な話し合いをしている。退居の際は次施設に送り書等を作成している。		
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1　その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 　一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応，記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーについては 概ね全職員意識しているが常にしているかといえば疑問である。	○	利用者様への無理強いは 場合によってはやむを得ない時（転倒・ろうべん等）も有るが、プライドは大切にして行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 　本人が思いや希望を表せるように働きかけたり，わかる力に合わせた説明を行い，自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	「どちらがいいですか」と自己決定のしやすい様に支援しているが、早口で説明する職員に「何を言ってるかわからん」と利用者の声が聞こえることがあった。 次の行動をお願いする時は丁寧にゆっくりと説明しているが、できてない職員もいる。		利用者様の希望の表出が表れにくいレベル低下となりつつあるが、出来るかぎり理解・納得できるよう支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 　職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	一人ひとりの食事量や形態がちがうのできめ細かく対応している。 コミュニケーションをなるべく取り希望を聞き取る様にしている。		一人ひとりの個性を大切にし、今後も取り込んでいきたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 　その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し，理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	利用者様やご家族の希望にあう髪型にしている。服装は好みを取り入れている。 男性のひげそりはプライドを大切にしていると不十分になる日も有る。 着やすい服をお願いしている為、利用者がその人らしい身だしなみにはなっていない。（４名） 理容はなじみの店を利用している。食べこぼしがついている時もある。		衣類のやぶれやボタンの取れたものを着用する日も有り修理していていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 　食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	準備や片付けを一緒にすることが 重度化の為、９名皆では難しい状況である。また「私は病人だから」と断られることもある。その日の利用者様の様子次第ですが、できる限り一緒に準備等をするようにしている。		加茂川・タイヘイが季節感を感じる献立を立ててくれている。毎週(木・土)フリー献立とし利用者様の食べたい物を献立に入れ一緒に買い物・調理をしている。利用者様２名が積極的な日もあり、継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 　本人が望むお酒，飲み物，おやつ，たばこ等，好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	日常的に好みのものを聞き提供している。 お酒・たばこに関しては支援していない。		
56	○気持よい排泄の支援 　排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとり 排泄チェック表を作成している。 全職員 排泄パターンを把握している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 　曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに，一人ひとりの希望やタイミングに合わせて，入浴を楽しめるように支援している。	毎週 水・日と曜日を決めているが入浴を希望すれば２Ｆで対応できるようにしている。 好みの湯温やその方の体調に応じてシャワー浴にしたりと希望や状況に合わせている。入浴中も会話を多くしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
58	○安眠や休息の支援 　一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居室の室温換気に気を配り体調に応じて休んで頂いている。 眠る前は落ち着いた声掛けで接している。 眠れない利用者様には、温かいお茶を一緒に飲みながら一時を過ごしている。		安眠を続けてオツム交換時・巡室時は目を覚ましてしまう時もあり、今後ケア技術を向上させたい。
	（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割，楽しみごと，気晴らしの支援 　張り合いや喜びのある日々の過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，楽しみごと，気晴らしの支援をしている。	掃除・夕食作り・行事等で力を発揮する利用者様もいるが出番が難しい。利用者様にはコミュニケーションを常にとるよう心掛ける。 外出等協力を得ているご家族もある。		
60	○お金の所持や使うことの支援 　職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には施設側でお金を預かっており、各利用者様のサイフをつくっている。力量に応じてご本人が管理している。 （ご家族と話し合った金額）		
61	○日常的な外出支援 　事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援している。	散歩への声掛けはその都度しているが季節が「体がだるい」など億劫な利用者様もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 　一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに，個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	ご家族の事情で難しい利用者が多い。 ３名の方は定期的に出かけている。	○	誕生日には利用者様の希望をかなえる日にしたい。行きたいところ・希望する事をご家族と共に支援したい。
63	○電話や手紙の支援 　家族や大切な人に本人自ら電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば随時電話を利用してもらっている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 　家族，知人，友人等，本人の馴染みの人たちが，いつでも気軽に訪問でき，居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問してもらっている。 居室でゆっくり過ごしてもらっている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 　運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	正しく理解しているが 利用者様の安全を守る為にやむを得ない場合は、ご家族との話し合いでその都度 ご家族の要望を取り入れている。（ベッド柵等）		
66	○鍵をかけないケアの実践 　運営者及び全ての職員が，居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており，鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関はオープンである。安全を配慮し午日中は10:00～16:00 オープンにしているが、業務上 1Ｆ入り口は利用者様の安全の確保が難しい場合、オートロックをかけている。(利用者様の突然の徘徊に職員が付き添い時、他利用者様の見守りに支障が起こると判断した際)		
67	○利用者の安全確認 　職員は本人のプライバシーに配慮しながら，昼夜通して利用者の所在や様子を把握し，安全に配慮している。	身体的・精神的な様子など 朝の申し送り・夜勤者への申し送りで ささいな情報でも全職員情報を共有して安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 　注意の必要な物品を一律になくすのではなく，一人ひとりの状態に応じて，危険を防ぐ取り組みをしている。	その都度ヒヤリハットにあげ、何が危険かを話し合い安全を確認している。		
69	○事故防止のための取り組み 　転倒，窒息，誤薬，行方不明，火災等を防ぐための知識を学び，一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスク委員会 月一回・看護師による勉強会 月二回・避難訓練 年二回など。 また 研修に参加しスキルアップをしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生の備え 　利用者の急変や事故発生時に備え，全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	２４時間オンコール体制を備えている。 消防署の協力を得てＧＨ佐伯区のＧＨで定期的に研修を行っている。		勉強会に 利用者様 一人ひとりに必要な応急手当を勉強会に取り入れる。
71	○災害対対策 　火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け，日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は 日中夜間を想定し利用者様と一緒に実施している。訓練の報告は家族会・運営推進会議で報告し意見要望を頂いている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 　一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し，抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	サービス記録・ヒヤリハットを基に利用者様各々のご家族に 起こり得るリスクを説明し対応策を話し合っている。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 　一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め，気付いた際には速やかに情報を共有し，対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックし表情や顔色・体熱感等を観察し職員間で報告しあい記録している。看護師より、早めに主治医に指示をあおぐ様にしている。		
74	○服薬支援 　職員は，一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬状況をサービス記録に記録し処方箋を個人ファイルにとじ 把握できるようにしている。医師に指示通り服薬出来る様 管理し症状確認している。		
75	○便秘の予防と対応 　職員は，便秘の原因や及ぼす影響を理解し，予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェック表を付け飲食物(ミルクバナナヨーグルトクロレラ)等個々に合った飲食物の摂取。また ホール内を歩いたり散歩を勧めたりお腹のマッサージ等を行っている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
76	○口腔内の清潔保持 　口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声掛けや介助により日常的に毎食後行っている。 義歯は夕食後 毎日消毒している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 　食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	1 日１５００ｃｃを目標とした水分摂取を心掛けている。 食事量は一人ひとりの健康状態により変更している。		
78	○感染症予防 　感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。（インフルエンザ，疥癬，肝炎，ＭＲＳＡ，ノロウィルス等）	利用者様・職員全員がインフルエンザの予防接種を受けている。 消毒手洗いうがい等は日常的に行っている。		
79	○食材の管理 　食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛星管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日まな板・布巾等の消毒を行い 冷蔵庫内も整理清掃に心掛け、消費者期限切れの物は廃棄処分し毎日新鮮なものを買う様にしている。		
	２　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 　利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	門は日中開放しており(7:00～16:00)近隣の人等が立ち寄れる様にしている。また 行事や催しにも参加して頂いている。 建物のまわりには花壇等も作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 　共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビの音量や照明等も時間帯に応じ調節している。 生花等で季節感を感じて頂いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 　共有空間の中には，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由にくつろげるリビングで一人ひとりが好きな様に 新聞を読んだりテレビを見たりお茶を飲んだり過ごしている。		

番号	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家庭で使われていた物を居室に置き安心して過ごして頂く様にしている。中には、病人だから治ったら帰りますと持ち込みが難しい方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め，温度調節は，外気温と大きな差がないよう配慮し，利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝の清掃時に居室ホールの換気をし、利用者様一人ひとりにあわせた温度調節を居室では行っている。		
	（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様が自由にくつろげるリビングがあり、ソファに座ってテレビを見たりして過ごしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして，混乱や失敗を防ぎ，自立して暮らせるように工夫している。	トイレなどには張り紙をしたり 掛け時計は低く設定しカレンダーを掛けたり常に分かる様にしている。 居室前には利用者様の写真を貼ったりスッタフの写真も廊下に貼っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり，活動できるように活かしている。	前庭にはイングリッシュガーデンを設置し、ウッドデッキには物干しを置き洗濯物を干したり家庭菜園も利用者様と共に行っている。		

（別紙２－１）

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護

認知症対応型共同生活介護

事業所名　　グループホーム アイリーフ五日市　Ⅱ

評価年月日　　平成２０年　　１月　　２５日　　記入年月日　　平成２０　年　１月　２５日

※この基準に基づき，別紙の実施方法のとおり自己評価を行うこと。

記入者　　職　管理者　　氏名　　山岡　圭吾

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ　理念の基づく運営				
1　理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 　地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして，事業所独自の理念をつくりあげている。	「暖かい家庭の雰囲気そのままに」という理念を掲げ、個人個人がいきいきとした生活を行っていけるよう、支援している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 　管理者と職員は，理念を共有し，理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員全員が理念を述べる事ができ、日々のミーティング等で、理念の実践へ向けた話し合いをもち取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 　事業所は，利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を，家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を共有、理解して頂くために、重要事項説明書に掲載してあり、またユニット内に違和感のないよう掲示をしている。		
2　地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 　管理者や職員は，隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり，気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	常日頃から、行事参加の呼びかけや習いもの教室の開催などを定期的に行っており、日常的な付き合いが行われている。		
5	○地域とのつきあい 　事業所は孤立することなく地域の一員として，自治会，老人会，行事等，地域活動に参加し，地元の人々と交流することに努めている。	老人クラブや納涼祭、秋祭、とんど、おやじの会等、年中を通して地域の行事に参加をしている。また、地域のボランティアの受け入れも行っている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に，事業所や職員の状況や力に応じて，地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い，取り組んでいる。	研修生の受け入れや、中学生の職場体験を受け入れている。	○	地域の方からの要望があり、宅老所・地域サロン等の取り組みが地域の方々と一緒に進んでいる。
3　理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者，管理者，職員は，自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し，評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議や連絡表にて情報を共有し、ほとんどの職員にて自己評価を行っている。評価の結果を職員会議で協議し、具体的な改善に職員全員が乗り出している。	○	新規の職員にも十分な説明をして理解してもらい、早い段階で自己評価に参加してもらいたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日常の取り組みを、写真を使い分かりやすいように構成員に説明報告している。また意見交換の時間を多く取っている。	○	会食などを盛り込みながら、話のしやすい環境作りに努めている。評価のテーマを活用して、話し合いの場へ生かしていきたい。
9	○市町との連携 事業所は，市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり，市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外では、主に電話や FAX でやり取りする程度である。	○	資料の送付だけでなく、近くへ寄ったら立ち寄ったり、資料を持参する等かかわり方を考えていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者や一部の職員は研修で学んでいる。 必要な方の相談受付を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	認知症高齢者への接し方を学び、大切なことは書き出し、職員の目のつく所へ貼りだし、理解、自己研鑽を重ねて事故防止に努めている。	○	虐待防止法についての研修を企画していきたい。
4　理念を実践するための体制				

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
12	○契約に関する説明と納得 　契約を結んだり解約する際は，利用者や家族等の不安，疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項、契約書の内容をひとつひとつ説明し利用する際の不安や疑問点を伺っていくようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 　利用者が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらの運営に反映させている。	ホーム玄関の入り口に意見要望箱を設置し、また毎月の郵送物の中にアンケート用紙を入れて意見要望があれば匿名で返信して頂くシステムを作っている。		
14	○家族等への報告 　事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態，金銭管理，職員の異動等について，家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時、家族会や行事、毎月の郵送物に同封する手紙や写真、また電話にて近況を伝えるようにしている。	○	面会の少ない家族にはどの職員からも積極的に声を掛けて、日常の様子を伝え話す機会を設けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 　家族等が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	毎月のアンケートや意見箱にて、意見要望が聞き出しやすい環境を整えている。意見があった場合迅速に返答し、対応している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	スタッフの意見を取り出すいように、ミーティングでも話しやすい雰囲気作りをしている。 意見が出た場合は実行に移せるか、全職員で話し合っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 　利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や予定に合わせて、スタッフの数を調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 　運営者は，利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし，代わる場合は，利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットごとに管理者、職員を固定させており常に馴染みの職員の対応を受ける事が出来る。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 　運営者は，管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしてくことを進めている。	新人職員に対する研修や年に一度、職員研修として内・外部の講師を呼んで研修を行っている。	○	新人を段階的に育成する計画を立てていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 　運営者は，管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームのネットワークを通じて、交流会や見学会の参加をしており、いつでも見学を受け付けられる体制を持っている。	○	訪問、見学職員交換会や交流会を行っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 　運営者は，管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	いつでも連絡、相談が取れるように、連絡表や連絡網の作成がされている。	○	職場内の行事参加は自由であるが、職場外でのスタッフ交流が出来ていない。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 　運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。	毎月の幹部会議にて職員個々の努力や実績を把握し、力量に合った仕事を振り分けて、向上心を持って働けるように努めている。		
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 　相談から利用に至るまでに本人が困っていること，不安なこと，求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり，受けとめる努力をしている。	本人とのコミュニケーションの時間をしっかりと取り、希望、要望する事や現在の生活についての話を度々話題の中に盛り込んでいる。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 　相談から利用に至るまでに家族等が困っていること，不安なこと，求めていること等をよく聴く機会をつくり，受け止める努力をしている。	ご家族の思いを受けとめ、利用者様とご家族の不安を少しでも軽減できるよう話し合うことに努めている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 　相談を受けた時に，本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	「その時」の本人の状況を話せる範囲内で、お話頂いて、適切なサービス利用ができるよう促している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 　本人が安心し，納得した上でサービスを利用するために，サービスをいきなり開始するのではなく，職員や他の利用者，場の雰囲気に除々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に利用者に見学に来ていただきホームの雰囲気に慣れて頂くようにしている。		
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 　職員は，本人を介護される一方の立場におかず，一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし，本人から学んだり，支えあう関係を築いている	一緒に家事を行ったり食事をしたりする事で、同じ時間を過ごす家族のように接している。利用者様から学ぶことも多く、感謝の気持ちを述べ暖かい関係作りを行っている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 　職員は，家族を支援される一方の立場におかず，喜怒哀楽を共にし，一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に利用者様の日々の様子を伝え、ご家族からの要望をお聞きしながら、一緒に利用者様がより良い暮らしを送れるような関わりを持つことを念頭に置いている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 　これまでの本人と家族との関係の理解に努め，より良い関係が築いていけるように支援している。	必要に応じて電話で話をして頂いたり、ご家族との時間を大切にし、より良い関係を持ち続けられるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 　本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	昔の友人や知人が面会に来られた場合は積極的に受け入れるようにしており、頻繁ではないが手紙での交流も行っている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
31	○利用者同士の関係の支援 　利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるように努めている。	利用者様が孤立しないように声かけを行い、レクリエーションや日常生活で関わりを持てるように働きかけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み 　サービス利用（契約）が終了しても，継続的な関わりを必要とする利用者や家族には，関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、電話にて行事にお誘いしたり、気軽に立ち寄って下さいと声を掛けたり、関係を断ち切らない付き合いをしている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1　一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 　一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	日常の会話や表情から、利用者様の意向の把握に努めている。またご家族の来訪時には情報交換を行うように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 　一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にご本人ご家族から情報収集を行って把握している。日々の会話の中からも生活歴を聞き、把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 　一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録、1日の排泄や水分チェック表などから1日の過ごし方や一般状態の把握に努めている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	利用者様、ご家族の意見を伺い、利用者様が安心して暮らせる介護計画を作成するように努めている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに，見直し以前に対応できない変化が生じた場合は，本人，家族，必要な関係者と話し合い，現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に介護計画を見直し、利用者様の状態に合わせた計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様の日々の言動やケアの状況を具体的に記録し、介護計画やケアの実践に生かすように努めている。		
3　多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況，その時々の要望に応じて，事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者様やご家族の要望に応じて、地域の行事への参加、買い物や外出、受診時の付添など柔軟な支援を行っている。		
4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて，民生委員やボランティア，警察，消防，文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域への行事への参加やボランティアの受け入れを行っている。消防訓練には佐伯区の消防署に協力、助言して頂いている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて，地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い，他のサービスを利用するための支援をしている。	必要性に応じて、ほか事業所ケアマネージャーと連携を取っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて，権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について，地域包括支援センターと協働している。	現在、実施できていない。	○	本人の意向や必要性に応じて、連携を取るよう努めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるよう支援している。	本人家族の希望をお聞きし、意向に沿えるよう努めている。定期的な通院、往診の体制が整っている。歯科医師による月１回の歯科検診や往診による治療も行われている。	○	利用者それぞれに合った受診、往診方法をとっている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら，職員が相談したり，利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的な受診だけでなく、主治医による勉強会を開いており、職員も連絡相談しやすい関係が築かれている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら，日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員の 24 時間連絡体制が整っており、日々健康管理、医療活用の支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは，そうした場合に備えて連携している。	病院の医師や医療関係者、ケアマネージャー、ご家族との連絡、情報交換を行い、退院後の生活に向けての連携を取っている。	○	医療関係者と連絡を取りながら、早期退院へ向けての相談をご家族から受けている。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 　重度化した場合や終末期のあり方について，できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入所時、面会時にご家族と話をしている。また必要性が高くなってきたときには、主治医、看護職員、ご家族を含めて話し合いの機会を度々設けている。	○	入所の段階で、ターミナルについての説明や話し合いをしていきたい。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 　重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために，事業所の「できること・できないこと」を見極め，かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは，今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご家族、看護職員、主治医、ケアマネージャーと話し合いながら検討、準備をしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 　本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際，家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い，住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	施設関係者への情報提供を行い、ご家族にも生活の様子を伝えている。		
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1　その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 　一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応，記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報の取り扱いについてはご家族に同意書を頂いて注意して行っている。又、日々の生活でもプライバシーを守れるよう支援し、本人の誇りを損ねる事がないよう、言動に配慮している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 　本人が思いや希望を表せるように働きかけたり，わかる力に合わせた説明を行い，自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定の場を奪わないよう、本人が思いや希望を表わせるような声掛け、信頼関係作りに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせ、できる限り本人の希望に沿って支援している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し，理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人が望む身だしなみの支援を行っている。理容、美容はご家族の協力を得ながら、本人の望む店に行けるよう努めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	本人のできる作業を見極めながら、毎日の食事準備、片付けを一緒に行っている。	○	毎週木曜日の夕食は、献立作りから、買い物、調理、片付けを職員と一緒に行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒，飲み物，おやつ，たばこ等，好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	移動パン屋さんにて、好きなパンを購入してもらったり、好きな飲み物のリクエストに応えられるようにしている。又、日々の買い物に出かけた時も、好きなおやつが買えるよう支援している。	○	お酒やタバコは基本ホーム内では禁止となっているが、ノンアルコールなどの飲み物で、楽しめるよう支援していきたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を付けて、職員全員で排泄の間隔が共有できるようにしている。尿意のない利用者には声掛け誘導にて排泄してもらう。又、定期的にパット交換を行い、いつも気持ちよく過ごしてもらえるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに，一人ひとりの希望やタイミングに合わせて，入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に添いながら、３日以上入浴できない日が続かないよう支援している。体調に合わせて清拭、足浴等も行っている。	○	行事によって、菖蒲湯やゆず湯、ヨモギ湯が楽しめるようにしている。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
58	○安眠や休息の支援 　一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日々の申し送りや記録から、睡眠のパターンを職員全員が共有し把握している。不安や淋しさから眠れないときは、お茶を飲みながら職員と一緒に過ごしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割，楽しみごと，気晴らしの支援 　張り合いや喜びのある日々の過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，楽しみごと，気晴らしの支援をしている。	それぞれの ADL に合わせ、掃除、洗濯、炊事、買い物などを生きがいや張り合いを持って行ってもらえるよう支援している。	○	それぞれの年代に合わせた音楽や、楽しみ事を提供している。
60	○お金の所持や使うことの支援 　職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの利用者のお小遣いを職員が管理している。預かっているお金を使用する時は、本人の希望を聞き職員が支払、管理を行っている。	○	買い物の時に支払いが可能な利用者にはお金を手に取ってもらい、支払いをして頂いている。
61	○日常的な外出支援 　事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩、地域の催し物には外出しているが、利用者全員や個別の時間の希望に添えていない。	○	1 日の業務内容を把握して、個別の外出希望に沿えるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 　一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに，個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	日常は近所のスーパーや公園に偏りがちではあるが、年間行事に小旅行などを盛り込んでおり、普段行く事が出来ない場所へご家族の協力を得ながら外出している。		
63	○電話や手紙の支援 　家族や大切な人に本人自ら電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話は必要に応じて支援している。文字が見えにくい方が希望すれば、代読している。		

番号	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族，知人，友人等，本人の馴染みの人たちが，いつでも気軽に訪問でき，居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会ができる事をお客様個人、ご家族を通じて伝えている。又、面会時には本人の居室でお茶を飲みながら、リラックスした雰囲気で過ごしていただけるよう努めている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が情報を共有し、身体拘束をしないケアを取り組んでいる。ご家族が、本人の安全を守るためにどうしても行ってほしいという場合には、身体拘束についての十分な説明の上、同意書を頂いて安全ベルトの使用を行っている。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が，居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており，鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵がかかっている事の弊害を理解して、ケアに取り組んでいる。夜間は見守りの職員が１名のため施錠をしているが、日中は基本的に開放している。	○	極力鍵をかける事のないように、職員が利用者の状態、希望を把握して対応していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら，昼夜通して利用者の所在や様子を把握し，安全に配慮している。	職員間で連絡、相談しながら、日中の安全確認が行えるようにしている。	○	居室内での転倒予防に、センサーライトや、布団に付けた鈴で安全確認ができるようになっている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく，一人ひとりの状態に応じて,危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状況に応じて、針やハサミを使用してもらっている。又、使用するときには安全の確認ができるよう職員が側について見守りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒，窒息,誤薬,行方不明,火災等を防ぐための知識を学び,一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクチーム（危険予測をして早急に対応策を実行していくチーム）を設定して、日々の勉強会やミーティングで情報を共有している。	○	

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生の備え 　利用者の急変や事故発生時に備え，全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	全職員が事故急変時に対応ができるよう、看護職員への連絡体制が整えてあり、月に 2 回の看護師による勉強会が行われえている。		佐伯区 GH ネットワーク主催で、消防署にて行われている救急蘇生の講習会へ参加している。
71	○災害対対策 　火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け，日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に 4 回、消防署職員の指導のもと様々な状況を想定した火災避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 　一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し，抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	リスクを含めた日常の報告を随時行っている。 必要によっては書面での同意書を頂いている。		
	（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 　一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め，気付いた際には速やかに情報を共有し，対応に結び付けている。	日々の体調変化に迅速に気付けるように努めている。 気づきは申し送り表を活用し、特記は赤ペンで記入し、職員全員で情報を共有している。		
74	○服薬支援 　職員は，一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬がないよう、朝、昼、晩、眠前、それぞれの薬カレンダーにセットしている。症状の変化に気づいた時には、看護師、主治医に報告している。		
75	○便秘の予防と対応 　職員は，便秘の原因や及ぼす影響を理解し，予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取に気を付けたり、効果の期待できる食品を摂ってもらっている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
76	○口腔内の清潔保持 　口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアを行っている。 義歯をポリデントへつけてもらったり、ケア用品を毎日除菌している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 　食べられる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分量のチェック表を付けている。 刻み食や、とろみをつけてそれぞれに合わせた食事形態を提供している。食事の摂りにくい方にはエンシュアドリンクなどで補うよう医師の指示が出ている。		
78	○感染症予防 　感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。（インフルエンザ，疥癬，肝炎，ＭＲＳＡ，ノロウィルス等）	それぞれの予防対応マニュアルが設置してある。 毎年インフルエンザの予防注射、ノロウイルス対策に次亜塩素酸での消毒を毎朝行っている。		
79	○食材の管理 　食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛星管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の作り置きはしない。調理用具は毎食後に除菌している。		
2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 　利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の鍵は開放している。 地域の人にも出入りしてもらえるよう、園庭にはバラやハーブを植えており足を止めて楽しんでいただけるような雰囲気づくりに努めている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
81	○居心地のよい共用空間づくり 　共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	全職員が居心地の良い共有空間づくりを意識している。 季節の草花を飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 　共有空間の中には，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールにはソファを設置しており自由に寛ぐことができる。又、本人のくつろぎたい場所へ、椅子を持って行くこともできる。庭にはベンチを設置している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 　居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い親しんだものを、居室に置けるようご家族と相談しながら安心し居心地の良い環境作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 　気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め，温度調節は，外気温と大きな差がないよう配慮し，利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日中夜間の気温に配慮し、換気、温度調節を行っている。	○	換気（窓の開放）を拒否される方もおられるので 本人の意思を尊重し、協力をいただけるよう声掛けを行う。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 　建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体の状況に合わせて、居室内に手すりを付けたり、食事では自助具を取り入れ自立支援を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 　一人ひとりのわかる力を活かして，混乱や失敗を防ぎ，自立して暮らせるように工夫している。	トイレ、風呂、本人の居室には場所が分かるよう名前が表示されている。 それぞれの認知や身体に合わせて掲示物を工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 　建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり，活動できるように活かしている。	ベランダや階段踊り場は、利用者が自由に行き来できるようにしている。希望すれば、庭や同一敷地内の施設へ職員と一緒に出る事が出来る。		